

調布景観クイズ

日本では古来より暮らしの中にある多彩な色合いを取り入れて生活してきました。その中でつけられた色の名前は、和名*などと呼ばれ親しまれています。

では、鮮やかな黄緑色を表す色の和名は、以下のどれでしょうか？

【ヒント】
この服のような色だよ！

- ① 萌黄 もえぎ ② 浅葱色 あさぎいろ ③ 弁柄色 べんがらいろ ④ 露草色 つゆくさいろ ⑤ 黄土色 おうどいろ



*JISが「物体色の色名」として規定する慣用色名

正解はページの下を見てね！

■次号の予告

次号は、いよいよ自分の家の色を考えていきましょう！

一色にしますか？二色にしますか？半分ずつ塗りますか？下部だけ色を変えますか？アクセント色はつけますか？屋根の色は？？

次号は、色の選び方や配色方法などをご紹介します。



◎コラム◎

「○○八景」って聞いたことがありますか？昔から、地域の優れた景観を8つ集めて「○○八景」というものが作られてきました。その中でも、江戸時代に活躍した歌川広重は、八景を多く描いています。彼の代表作ともいえる「江戸近郊八景」のひとつ「玉川秋月」では、調布付近からの秋の月に照らされた美しい多摩川の眺めが描かれています。



「江戸近郊八景之内 玉川秋月」
出典：国立国会図書館デジタルコレクション

現代版、「江戸近郊八景」に選ばれるような景観をつくっていきましょう。

正解：① 萌黄。春に萌え出る草の芽の色からこのような和名がつけました。
他にも植物や動物、身の回りの自然の物からとった色の名前がたくさんあるから調べてみよう！

調布市では、景観まちづくりについて、景観だよりでお知らせをしていきます。

発行 調布市都市整備部 都市計画課 景観係

Tel : 042-481-7746 Fax : 042-481-6800 mail : keikaku@w2.city.chofu.tokyo.jp

ちょうふ 景観 だより

平成 26 年 11 月 13 日発行

第21号



■向こう三軒両隣のデザインは？

まちなみは、二軒以上の建物が並んだり向かい合うことでできあがっています。

今回は、自分の家の向こう三軒両隣(隣や向かい)の建物に注目をして、身近なまちなみについて考えてみましょう。

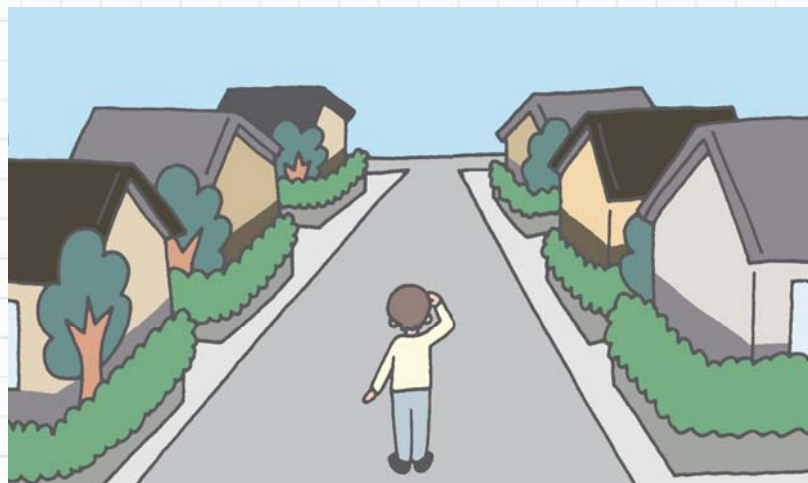


今号の目次

- 向こう三軒両隣のデザインは？ (1 ページ)
- 向こう三軒両隣で考えよう！ (2 ページ)
- まちなみとデザイン (2 ページ)
- まちなみと調和する色 (3 ページ)
- 自然と調和する色 (3 ページ)
- 次号の予告・コラム (4 ページ)

■向こう三軒両隣で考えよう!

調布市内は一戸建てや共同住宅などの住宅地が多いのが特徴です。それぞれの家のデザインや色に目を向けてみると見慣れたまちなみでも新たな発見があるかもしれません。



歩いていると向かいの建物も同じ視界に入るから、両隣の建物だけでなく、向かいの建物も一緒に意識する必要があるんだね。



●まちなみとデザイン



- 生垣の高さが揃っている。
- 外壁の色が揃っている。



- 屋根の高さが揃っている。
- 家の周りに緑を植えている。

上の写真はまちなみが整って見えるね。どのような工夫をすれば、まとまりのあるまちなみになるのかな？



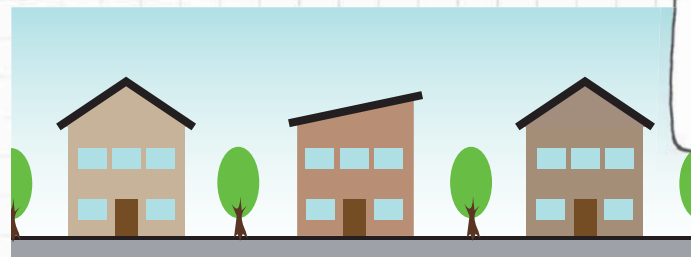
- 屋根の高さを揃える
- 周辺の建物と調和のとれた色を使用する
- 屋根の素材や色あいを揃える

- 生垣やフェンス等の高さを揃える



●まちなみと調和する色

同じ系統の色の建物が並んでいると、まちとしてまとまりが感じられます。向こう三軒両隣の建物はどのような色の建物が多いか、どうすれば周辺と調和するかを考えながら建物の色を選ぶことが大切です。



■暖かく落ち着いた色を基本とし、周辺の建物と調和した配色となっています。

調和する色ってどんな色？
どんなところに気を付けて
選ばばいいのかな？



●自然と調和する色

調布市では、河川、崖線の樹林や農地などを身近に感じることができます。そのため、建物の色とその周辺の自然環境との調和を考えることが重要です。

自然の色は、私たちが考えているよりも落ち着いた色となっていることが多いです。自然の色に上手く溶け込むような落ち着いた色を選びましょう。

■自然の色(例)



自然の色は、思っているよりも鮮やかな色ではないんだね！



■落ち着いた色の建物は周辺の自然環境と調和します。

ポイント

- ・まちなみを意識しながら自分の家の周りを歩いてみて、周辺の建物のデザインや色を観察してみよう！
- ・良いまちなみを作るには、建物の連続性が大切です。そのことを意識し、塀や生垣についても考えよう！
- ・向こう三軒両隣の建物の色と同じ系統の色を選ぶなど、周辺のまちなみを意識しよう！
- ・自然の色は落ち着いた色であることを意識し、周辺の自然環境を生かした工夫をしよう！